

富山県 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2022年～2024年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2023年	2024年	2030年（目標値）	達成度（%）
1	立山黒部アルペンルートへの外国人観光客数【8.9】	2019年 240,000 人	2022年 6,900 人			2030年 420,000 人以上	-130%
2	観光地入込数（富山湾岸エリアの主要観光地・観光施設）【8.9】	2019年 335 万人	2022年 257 万人			2030年 339 万人	76%
3	県産代表6魚種の産出額（税抜）【8.9、9.4】	2019年 39 億円	2021年 35 億円			2030年 54 億円以上	-27%
4	小水力発電の整備箇所数【7.2、9.4】	2022年2月 54 箇所	2022年 54 箇所			2030年 60 箇所以上	0%
5	一般廃棄物循環利用率【12.5】	2019年度 26.0 %	2021年度 25.2 %			2030年度 28 %以上	-40%
6	食品ロス削減のための取組みを行っている人の割合【12.8、17.17】	2020年度 81.3 %	2022年 89.7 %			2030年 90 %以上	97%
7	水質に係る環境基準の達成率【6.3、14.1、15.1】	2020年度 100 %	2022年度 100 %			2030年度 100 %	100%
8	県内市町村が実施した清掃美化活動の参加者数【14.1、15.1】	2019年度 24.2 万人	2022年度 20.0 万人			2030年度 25 万人以上	-525%
9	里山林の整備面積（累計）【15.1】	2020年 3,603 ha	2022年 3,960 ha			2030年 4,800 ha以上	30%
10	優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽面積（累計）【15.1】	2020年 129 ha	2022年 185 ha			2030年 500 ha以上	15%

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況（2022年～2024年）

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度（%）
1	「立山黒部」の世界ブランド化	立山黒部アルペンルートへの外国人観光客数	2019年 240,000 人	2022年 6,900 人			2024年 300,000 人以上	-389%
2	国際的ブランド「世界で最も美しい富山湾」の活用	観光地入込数（富山湾岸エリアの主要観光地・観光施設）	2019年 335 万人	2022年 257 万人			2024年 321 万人	80.1%

富山県 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2022年～2024年

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
3	水産業の振興と富山湾のさかなのブランド力向上	県産代表6魚種の産出額（税抜）	2019年 39 億円	2021年 35 億円			2024年 51 億円	-33%
4	再生可能エネルギーの導入、新たなエネルギーの利用に向けた開発の促進	小水力発電の整備箇所数	2022年2月 54 箇所	2022年 54 箇所			2024年 58 箇所	0%
5	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	一般廃棄物循環利用率	2019年度 26 %	2021年度 25.2 %			2024年度 28 %	-40%
6	「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立	食品ロス削減のための取組みを行っている人の割合	2020年度 81.3 %	2022年 89.7 %			2024年 85 %以上	227%
7	立山黒部をはじめとする雄大で美しく豊かな自然環境の保全	水質に係る環境基準の達成率	2020年度 100 %	2022年度 100 %			2024年度 100 %	100%
8	清らかな水資源の保全と活用	県内市町村が実施した清掃美化活動の参加者数	2019年度 24.2 万人	2022年度 20 万人			2024年度 25 万人	-525%
9	水と緑の森づくり	里山林の整備面積（累計）	2020年 3,603 ha	2022年 3,960 ha			2024年 4,420 ha	44%
10	水と緑の森づくり	優良無花粉スギ「立山森の輝き」の植栽面積（累計）	2020年 129 ha	2022年 185 ha			2024年 329 ha	28%

富山県 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2022年～2024年

(3) SDGs未来都市計画推進のKPI達成に係る評価及び課題等

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け進捗が思わしくない指標が多かったが、引き続き2030年の目標に向け取組みを推進していく。
- ・「No.1：立山黒部アルペンルートへの外国人観光客数」や「No.2：観光客入込数」の減少については、パンフレットの多言語対応や受け入れ環境の整備によりインバウンドの誘客につなげるほか、富山湾の魅力を活用した高付加価値化の取組みをさらに進め、国内外への魅力発信による観光振興や地域活性化が必要。
- ・「No.3：県産代表6魚種の産出額」の大幅な減少についてはとやまの食材プロモーション事業の実施により、全国的に知名度が向上した「富山のさかな」のブランド力をより強固なものとし一層の販路拡大を図る。
- ・「No.4：小水力発電の整備箇所数」については令和4年度は新規稼働案件はなかったが、令和5年度は新たに3箇所の小水力発電所が稼働しており、また、令和6年度以降も新規箇所の整備が見込まれている。
- ・「No.5：一般廃棄物再生利用率」については、「プラスチック資源循環促進法」に基づく措置の内容を踏まえながら、引き続き集団回収や民間事業者による回収など資源回収に取り組み、再生利用率の向上を目指す。
- ・「No.8：県内市町村が実施した清掃美化活動の参加者数」の減少については、県内企業・団体等が参加する「とやま海ごみボランティア部（R4.7設立）」を中心として、清掃活動のより一層の促進を図り、参加者数の増加を目指す。
- ・「No.10：優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽面積」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、森林所有者との協議が遅れており、植栽面積が減少した。苗木の生産の安定化と短期化のため、さし木苗生産への転換を進める。